

氏名	河辺 賢一	所属	東京大学
旅程(参加イベント等を含む)			
<p>8/21 東京/成田出発 [空路 EY871]</p> <p>8/22 →アブダビ(UAE)(経由)[空路 EY37]→パリ(フランス)、Welcome Drink</p> <p>8/23 Opening Ceremony、WG.C1.19、Workshop "Large Disturbance"、英国 NGN 開催 Drink Reception</p> <p>8/24 英国 NGN 開催 RTE 見学会、C1 レギュラーミーティング</p> <p>8/25 C1 スペシャルレポーターとの面接</p> <p>8/26 C1 Discussion Meeting、FNC 主催 Dinner"Soiree"</p> <p>8/27 パリ(フランス)[空路 EY32]→アブダビ(UAE)(経由)[空路 EY878]</p> <p>8/28 →東京/成田到着</p>			
内容および所感			
<p>CIGRE の活動において、私は WG.C1.19 の国内作業会に若手のメンバーとして参加させて頂いている。今回、若手委員への参加費用援助の話頂き、パリ大会に参加させて頂く運びとなった。パリ大会参加の主な目的は、英国の若手技術者向けの組織である NGN(Next Generation Network)が主催するイベントに参加し、国外の若手技術者との交流を図ることである。</p>			
<p>パリ大会の会場では、NGN のスタンドが設けられており、まずはこのスタンドを訪問した。スタンドには、NGN の Chairperson を務める Beatrice Chong 氏(National Grid)をはじめ、NGN の Steering Committee のメンバーが待機していたので、自己紹介を行い、NGN の活動に関する話を伺った。NGN は、2007 年に CIGRE UK の活動に馴染みのない英国の若手の技術者(学生も含む)を対象として設立された。設立にあたっては、現在 NGN の Executive メンバーとなっている Chris John 氏(Sinclair Knight Merz)、Colin Ray 氏(National Grid)、Adam Middleton 氏(GE Energy)と、数人の若手技術者との間で、組織設立の目的などについて話し合われた。NGN の会員数は、2010 年 6 月時点で 164 人となっている。活動は、Steering Committee を中心とする若手メンバーが主体となっており、イベントの開催、メンバーの勧誘、宣伝ビデオの作成まで手掛けているようである。Chong 氏の説明では、NGN 会員に登録することによる特典(benefit)として、次の 4 つのキーワードを挙げている。</p>			
<ol style="list-style-type: none"> ① Inform : NGN の活動情報を知ることができる(メールベース)。 ② Engage : NGN の活動に対して自由にアイデア・意見を出せる。テクニカルツアー(設備見学会など)を通して専門家の話を聞くことができる。 ③ Network : テクニカルツアーを通じて産業界の方々と交流することができる。若手メンバーの間で、今後長きに亘る交友関係を築くことができる。 ④ Develop : メンバーやオブザーバとして WG に参加することで、自身の専門性や知見を深めることができる。 			
<p>NGN メンバーの CIGRE パリ大会参加にあたっては、参加費を英国 NC(national committee)が支援し、交通費・宿泊費等は各メンバーが所属する大学・企業が支援しているということであった。また、普段の活動における設備見学会では、招待した企業が費用負担をしてくれるという。</p>			
<p>パリ大会参加二日目(8/23)の夜は、LaDefance 地区にある Areva Tower にて、NGN が主催する若手技術者向けの Drink Reception があった。本イベントの目的は、若手技術者どうしの交流であり、1 時間半ほど飲み物が用意された一室で交流の時間がもたれた。この時間で、互いの自己紹介を行い、パリ大会参加への経緯や、参加している CIGRE の WG などについて情報交換を行った。本イベントには、英国、アイルランド、ドイツ、オランダ、ロシア、米国、オーストラリア、日本からの若手技術者が参加し、特に英国、ドイツ、ロシアからの参加者が多い印象を受けた。アジア圏からの参加者は日本だけであった。また、このイベントは ALSTOM</p>			

がスポンサーとなっており、パーティーの前には ALSTOM から 30 分ほど企業紹介が行われた。

三日目(8/24)の午前には、NGN 主催のイベントである RTE の企業訪問に参加した。本イベントには、ロシア、ドイツ、英国、米国、日本からの参加があった。参加当初は、設備見学会を想像していたが、実際には RTE の企業説明会であった。イベント自体は、RTE 内の会議室で企業説明を受けて終わったが、イベント終了後、何人かの若手技術者とランチをとり、再び交流することができた。

上記二つのイベントを通して、若手技術者との面識ができたため、5 日目(8/26)の FNC 主催ディナーにおいても彼らと交流した。FNC ディナーでは、お酒も交えて互いの国の文化や、趣味などが話題となり、親交を深めることができた。

今回 NGN イベントに参加した若手技術者のうち、約 4 割は博士課程・修士課程の学生で、私が親交を深めた若手技術者は主に学生であった。ロシアから参加した学生は、国内の学術会議で表彰を受け、その副賞が CIGRE パリ大会への参加であったという。ドイツでは、Young Energy Net という英国 CIGRE NGN と同様の若手組織が 2010 年の 5 月ごろに立ちあげられ、その組織から何名かの学生が参加していた(設立間もない組織なので、メンバー数は現在 10 名程度)。Young Energy Net は、電気製品に承認マークを与える認定試験・検査業務を行う協会である VDE がスポンサーとなっている。私が親しくなったドイツ人の修士課程の学生がこの組織のリーダーをしており、今回も Young Energy Net の活動を宣伝するために、VDE の支援を受けてパリ大会に参加していた。ドイツではこの VDE が学生と産業界をつなぐプラットフォームをつくっているようである。今回のパリ大会参加で、Young Energy Net と英国 NGN と合同のイベント開催の可能性について話あったという。

若手技術者(主に学生)との交流を通して感じたのは、彼らのコミュニケーション能力の高さと、CIGRE 活動に対する積極性である。英語を母国語としない国の出身であっても、積極的に他国の若手技術者に話しかける姿は、日本の学生にはあまり見られない姿であった。ただし、全ての若手技術者が英語を流暢に話せる訳ではなく、ロシアから来た学生の一人は、今回のイベントを通して、今後さらに英語での会話能力を高めなければならないと感じたと話していた。また、私が交流した英国、ドイツの若手技術者の中には、博士課程の学生で WG のメンバーになっている方もおり、そうでない学生でもオブザーバとして参加しているという人がいた。我が国では、殆どの学生が CIGRE の活動さえ知らないことを考えると、産業界の方々が集まる場に積極的に身を置こうとする彼らの意識の高さに感銘を受けた。

今回のパリ大会参加では、NGN 関連のイベントのほかにも、WGC1.19 への参加や C1 ミーティングでのコントリビューション実施など、CIGRE 活動の雰囲気味わう貴重な体験をさせて頂いた。彼らと同等に議論を行うためには、専門的な知識は無論のこと、語学能力もまだまだ足りないということを痛感した。また、自身と年齢の近い若手技術者との交流は私にとって大きな刺激となったため、我が国においても、意欲のあるより多くの学生・若手技術者がこのような場に参加できる環境を整えたいと感じた。距離の問題は大きいですが、各国の意欲ある若手技術者との交流は、我々の国際性や社会貢献への意欲を高めるはずである。

最後になりますが、今回の CIGRE パリ大会参加にあたって、ご支援・ご助言して下さった JNC の関係者の皆様、C1 国内分科会の関係者の皆様、横山明彦先生に心より感謝の意を表します。



パリ大会会場



NGN イベントの様子①



NGN イベントの様子②



NGN イベントの様子③



C1 ミーティングにおけるコントリビューション



FNC 主催 Dinner にて